



学ぶ意欲向上のための講演会を実施 演題「再生可能エネルギー100%の福島を目指して」 -田舎こそ、再生可能エネルギーの中心拠点！福島・会津・君たちが主役であり当事者-



10月31日(金)、学ぶ意欲向上のための講演会が本校体育館で開催された。講師は福島大学共生システム理工学類教授の佐藤理夫(みちお)先生でした。佐藤先生には、エネルギーのしくみや現状、課題を工夫された大変わかりやすいプロジェクター資料を使って、詳細かつ丁寧にお話しいただき、生徒たちの再生可能エネルギーに対する基礎的理解と問題意識を大いに高める絶好の機会となったようです。福島のみならず日本の再生可能エネルギー開発の第一人者である佐藤先生のお話を聴講できたことは、極めて貴重かつ有意義な時間となりました。当日の垂れ幕は、いつものように書道同好

会の皆さんの制作で講演会を盛り立ててくれました。ご協力ありがとうございました。

講演会アンケートより

- ◆他国と比べると日本のエネルギー自給率がどれほど低いかははっきりとわかりました。石炭や石油はどうしても輸入しなければならないし、その資源も近い将来底をつき地球温暖化を確実に進めているので再生可能エネルギーへの転換は本当に大切だと思いました。その時、福島県がそのさきがけになるという話には夢があると思いました。(1年女子)
- ◆日本は世界34カ国中33位の自給率しかないことに驚いた。福島県の布引高原の風力発電や柳津町の西山地熱発電所などの発電量が国内最大規模と初めて知って驚いた。再生可能エネルギーにはコストや天気などまだまだ課題が残っていると思った。(1年男子)
- ◆「試してやるからただで持ってこい」「欲しいなら取りに来い」の言葉にインパクトがあった。再生可能エネルギーが日本・福島を支えるのにどれだけ重要か改めてわかった。(1年男子)
- ◆再生可能エネルギー100%は正直高すぎる目標で原発事故後の一つのスローガンと思っていた。しかし、福島県は道筋をしっかり決めそこを目指していることが理解できた。(1年男子)
- ◆私は土湯温泉の取り組みに興味を持った。震災で人が減ったが地熱発電の見学施設を建設し温泉に人を呼ぶことができた。佐藤先生は私的な発電所を所有していて、私も家を新築することがあれば太陽光パネルを設置し賢くお得に発電してみたい。(2年男子)
- ◆質疑応答の「福島がリードしていく」という言葉がとても印象に残った。福島が再生可能エネルギー100%を目指すことで日本全体に、果ては世界中が使用すると思った。(2年男子)
- ◆「今私たちは地球が何億年もかけて作りだしたものをわずか数十年で使い切ろうとしている。これではもし古代の恐竜たちに化石資源を生みだしてくれたアルバイト代を支払おうとしても膨大な桁数になってしまう」という先生の言葉は私の心に強く刺さりました。(2年女子)
- ◆私は福島県が日本の再生可能エネルギーを引っ張っていく存在であることを知った。日本はエネルギー自給率が34カ国中33位、8.3%と低いことが問題。私の住む地区では、地区の取り組みでソーラーパネルを設置しています。ソーラーパネルは発電し余った電気を都会に供給できるのでもっと土地を有効活用して増やせればと思いました。(3年女子)
- ◆福島県には再生可能エネルギーの実績や将来性はあまりないと思っていましたが、今回の講演を聴き、福島県には風力や水力の他にたくさんの資源があるのを改めて知った。田舎だからこそたくさん土地を使った太陽光発電や山を活かしたチップなどのバイオマス発電があることを知り、福島県はとても良いことをしていると改めて実感した。(3年男子)

模試の結果より～なぜ点数が取れないのか？理由はすべて地力不足！



3年生は進研模試等、模擬試験の結果が定期的に返ってきている。結果を見てみると、肝心の英語では、偏差値50を超える生徒は少なく苦戦している。英語が本校の弱点とは言え、今年の例年以上の伸び悩みが心配である。定期考査では、指定された範囲での試験のため、まじめに取り組み勉強すれば高得点が取れるが、模試や入試ではそうはいかない。では、なぜ模試で伸び悩み点が取れないのか？それはすべて地力不足だからである。地力は一夜漬けや数日の勉強で身につくものではなく、コツコツと時間をかけて実力を定着させたものである。その点で、本校生徒は、ふだんからの積み上げ・受験勉強が足りず、地力がついていないため、模試のような広い範囲での総合的な実力を問う試験では歯が立たなくなる。やはり、模試で高得点を取るには、継続した計画的な受験勉強で基礎学力を定着しかない。

①英語～語彙力(単語・熟語)が足りないことによる地力不足。

英語は、すべての進路において要となる教科である。英語は配点も高く、英語が得意というだけで受験の武器、受験を有利に展開できる。例年本校生徒と関わっていて痛感することは、単語力・熟語力が足りない、ということである。長文読解・文法・リスニングなど大事な内容は多数あるが、ある程度の実力を発揮するためにはやはり根底・基盤となる語彙力が絶対条件となる。単語・熟語の知識量を増やすためには、五感を使って我慢して覚える、という地道な家庭学習が必須なのである。覚える苦痛から逃げず、我慢して取り組む姿を期

②国語～読解力(読書量)が足りないことによる地力不足。

待したい。

小中学校時代から読書の習慣のある生徒は、総じて模試での点数は高い。しかし、私自身の経験や教え子たちの姿から、高校からでも夏休みに「読書の虫」となった後の2学期の模試で偏差値が驚くほどぐんと伸びた生徒も少なくない。まさに日頃の読書量がモノを言うわけである。3年生はゆっくり読書という時間はなかなか取れないが、せめて新聞や自分の専門分野の本は読んでおきたい。特に、時間的余裕のある1・2年生は、読書の大切さを自覚して意識的に読んでほしい。読書の喜びを知り、読書量が増えれば必ずや点数に結びつくことを、ぜひ実感してほしいものだ。読解力が身につけば、他の教科の成績も向上しやすい。

③地歴公民～知識量・勉強量が足りないことによる地力不足。

地歴公民は、君の努力・期待を裏切らない。努力したものがほぼ間違いなく結果として現れる教科である。よって、やらなきゃ損な教科であり、毎日1時間でも計画的に勉強をしていけば、知識が定着し得意教科にさえることができる。地歴公民は、受験直前まで伸びる可能性のある教科である。「問題集をやれば安心」ではダメ！「声を出して教科書を目に焼き付けて覚える」という苦痛の地道な作業をいかに多く実践できるかが、地力をつける最良の方法だ。地力は教科書から！

推薦入試(大学・短大)いよいよ本番！弱気は禁物、強気で挑め！

残り時間をいかに過ごすかで合否は左右される。あきらめず、粘って悔いのない挑戦を。